

令和元年度市民意識調査結果（速報値から）

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、佐倉市の取組等に対する市民の皆様からの率直なご意見等をお聞かせいただき、施策の実施・評価の参考とすることにより、行政サービスの向上を行いながら、将来像の実現を図るために実施するもの。

(2) 調査の設計

この調査は、以下「調査種類」欄に記載している①と②の2つの調査から構成（各調査の対象者数は2,000名で、調査ごとの回答者は2グループに分かれる）。

調査地域	佐倉市全域
調査対象	市内在住の18歳以上の男女
調査種類	①福祉・健康・教育編 ②まちづくり・地域活動・産業編 ※各調査共通：属性、自由意見等
対象者数	各調査2,000名（合計4,000名）
抽出方法	住民基本台帳から層化多段無作為抽出
調査方法	郵送配布・回収
調査期間	令和元年5月29日～令和元年6月21日

※昨年度との主な相違点

- ・「福祉・健康編」、「まちづくり・地域活動編」、「教育・産業編」の3つを上記の2つに。
- ・発送部数 $1,400 \times 3 = 4,200$ 部を上記の $2,000 \times 2 = 4,000$ 部に。

(3) 配布・回収結果

調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
福祉・健康・教育編	2,000	602	30.1%
まちづくり・地域活動・産業編	2,000	663	33.2%
合計	4,000	1,265	31.6%

(4) 見方

- 「構成比」は、各項目の回答数を回答総数で除し、小数点第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表示。このため、構成比の合計が100%にならないことがある。
- 自由記載回答は、同様の回答内容の集計や誤植の修正等を行っている。

(5) 調査項目

- 第3次地域福祉計画の成果指標として、地域福祉活動に関する4つの設問を実施（P2～6。令和元年度は、自由意見の設問は実施しなかった）。
- 包括的な支援体制の検討に向けて、【相談、支援の環境等】の2つの設問を実施（P7～10。自由意見は、P8～10）。
- 【民生委員・児童委員】に関する2つの設問を実施（P11）。

2. 調査の結果（抜粋）

（2）福祉・健康・教育編

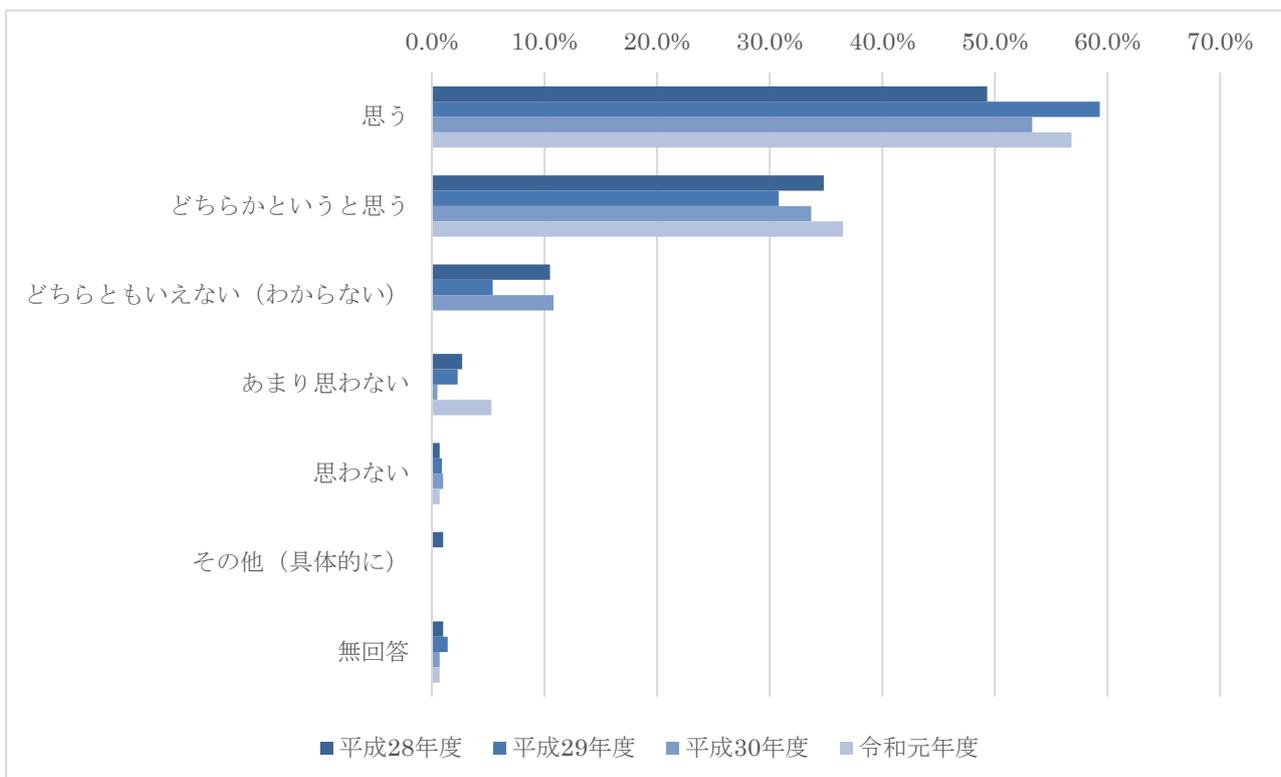
問 14

「地域で安心して住み続けるためには、住民同士の支え合いや助け合い等、つながりを大切にする必要があると思いますか。」【1つ選択】

※平成 29 年度から、「その他（具体的に）」の選択肢を削除。令和元年度から「どちらともいえない（わからない）」の選択肢を削除。また、設問のタイトルは、令和元年度から削除。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	目標値
思う	49.3%	59.3%	53.3%	56.8%	65%
どちらかというと思う	34.8%	30.8%	33.7%	36.5%	—
どちらともいえない （わからない）	10.5%	5.4%	10.8%	—	—
あまり思わない	2.7%	2.3%	0.5%	5.3%	—
思わない	0.7%	0.9%	1.0%	0.7%	—
その他（具体的に）	1.0%	—	—	—	—
無回答	1.0%	1.4%	0.7%	0.7%	—

「どちらともいえない（わからない）」の選択肢をなくした結果、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた割合が、90%を超えています。



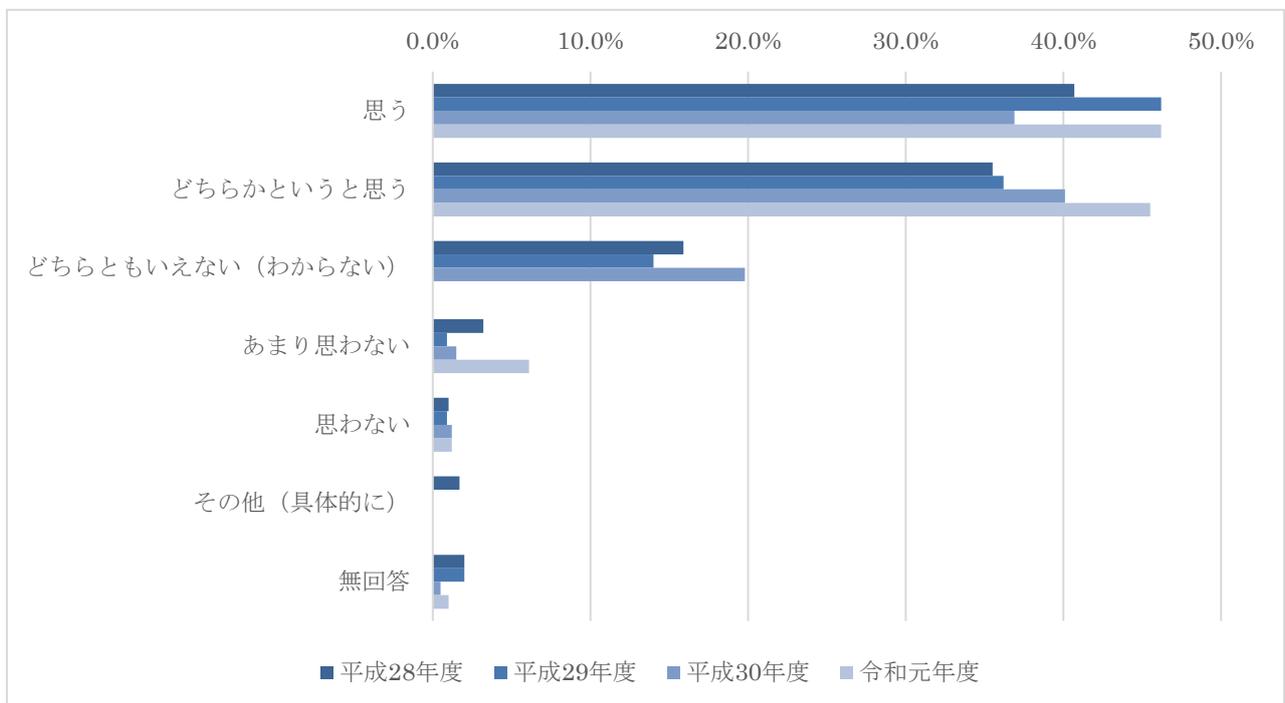
問 15

「近所から、困りごとがあるので相談に乗って欲しい、手助けして欲しいと頼まれた場合、協力すべきだと思いますか。」【1つ選択】

※平成 29 年度から、「その他（具体的に）」の選択肢を削除。令和元年度から「どちらともいえない（わからない）」の選択肢を削除。また、設問のタイトルは、令和元年度から削除。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	目標値
思う	40.7%	46.2%	36.9%	46.2%	50%
どちらかというと思う	35.5%	36.2%	40.1%	45.5%	—
どちらともいえない (わからない)	15.9%	14.0%	19.8%	—	—
あまり思わない	3.2%	0.9%	1.5%	6.1%	—
思わない	1.0%	0.9%	1.2%	1.2%	—
その他（具体的に）	1.7%	—	—	—	—
無回答	2.0%	2.0%	0.5%	1.0%	—

「どちらともいえない（わからない）」の選択肢をなくした結果、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせた割合が、90%を超えています。



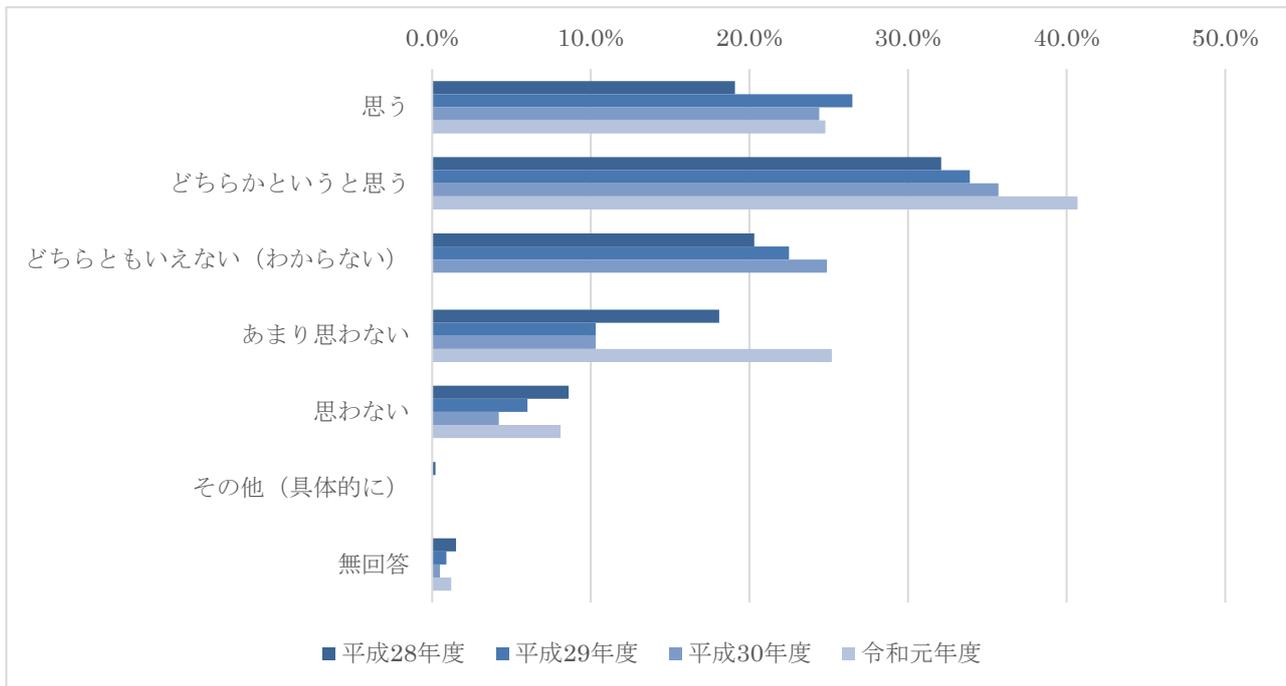
問 16

「日頃の『あいさつ』や、近所の方の異変に気がついた際の声かけ等、住民同士の気づき
 ができていると思いますか。」【1つ選択】

※平成 29 年度から、「その他（具体的に）」の選択肢を削除。令和元年度から「どちらともいえ
 ない（わからない）」の選択肢を削除。また、設問のタイトルは、令和元年度から削除。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	目標値
思う	19.1%	26.5%	24.4%	24.8%	30%
どちらかというと思う	32.1%	33.9%	35.7%	40.7%	—
どちらともいえない （わからない）	20.3%	22.5%	24.9%	—	—
あまり思わない	18.1%	10.3%	10.3%	25.2%	—
思わない	8.6%	6.0%	4.2%	8.1%	—
その他（具体的に）	0.2%	—	—	—	—
無回答	1.5%	0.9%	0.5%	1.2%	—

「どちらともいえない（わからない）」の選択肢をなくした結果、「どちらというと思う」が増える
 一方で、「あまり思わない」が約 15%増加しています。



問 17

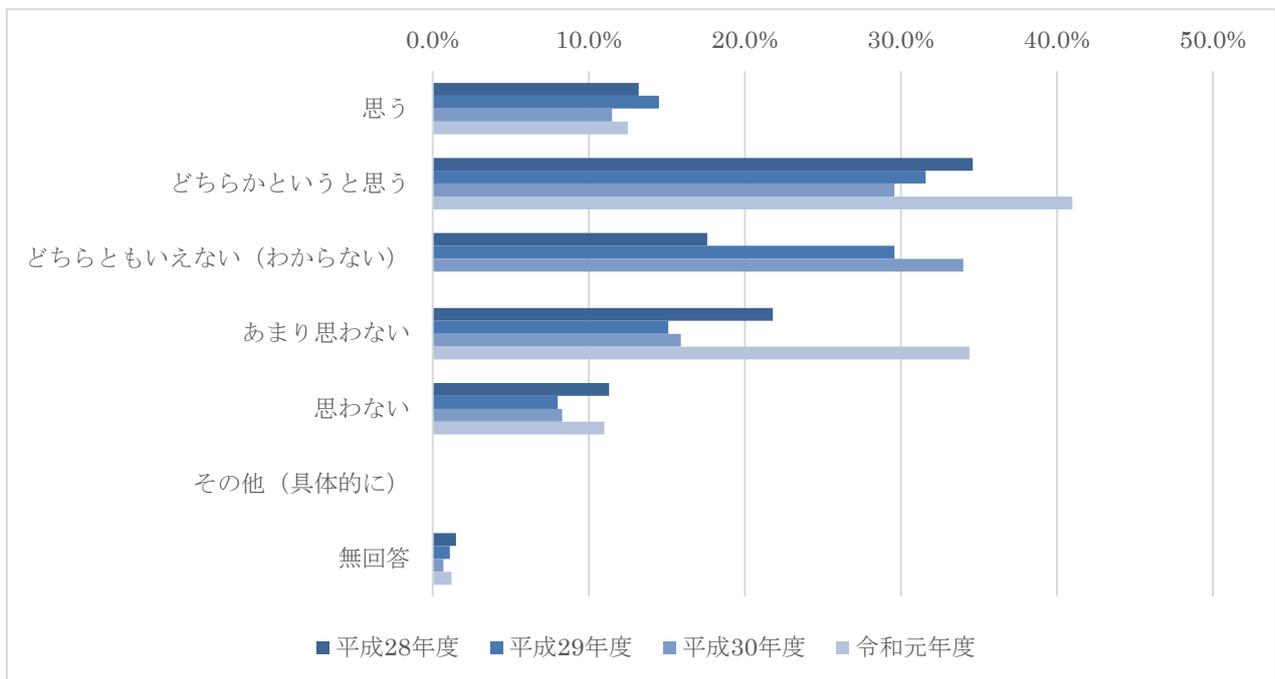
「地域行事への参加や協力等、住民同士の交流やふれあいができていると思いますか。」

【1つ選択】

※平成 29 年度から、「その他（具体的に）」の選択肢を削除。令和元年度から「どちらともいえない（わからない）」の選択肢を削除。また、設問のタイトルは、令和元年度から削除。

	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	目標値
思う	13.2%	14.5%	11.5%	12.5%	25%
どちらかというと思う	34.6%	31.6%	29.6%	41.0%	—
どちらともいえない (わからない)	17.6%	29.6%	34.0%	—	—
あまり思わない	21.8%	15.1%	15.9%	34.4%	—
思わない	11.3%	8.0%	8.3%	11.0%	—
その他（具体的に）	0.0%	—	—	—	—
無回答	1.5%	1.1%	0.7%	1.2%	—

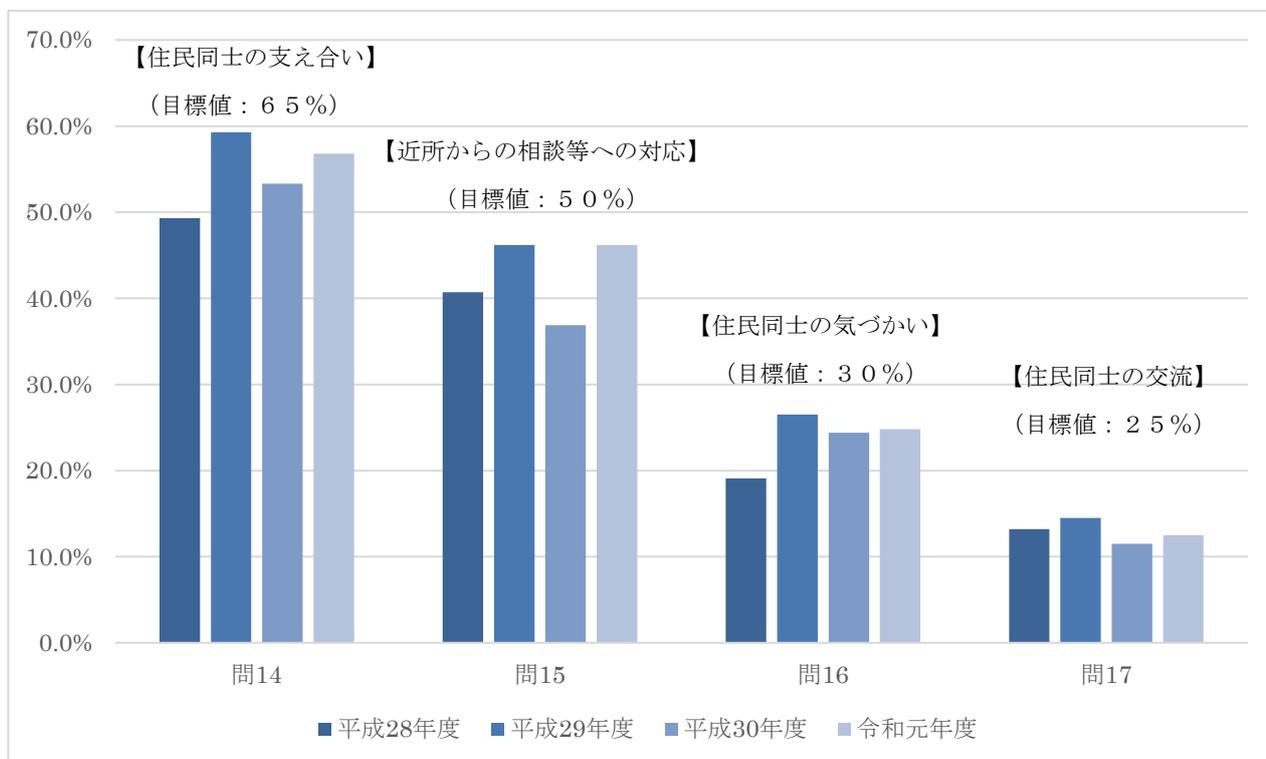
「どちらともいえない（わからない）」の選択肢をなくした結果、「どちらかというと思う」が40%を超える一方で、「あまり思わない」が約20%増加しています。



問14～17の「思う」の回答割合（第3次計画・成果指標）

※令和元年度は、「どちらともいえない（わからない）」の選択肢を削除。

各設問とも、目標値には届いていません。一定の割合で前後しています。



結果から見られる傾向

○ 問14から問17の全てに共通して、「どちらかというと思う」を含めると、それぞれの目標値は超えています。

※ 令和元年度：問14・93.3%、問15・91.7%、問16・65.5%、問17・53.5%。

令和元年度については、「どちらともいえない（わからない）」の選択肢をなくしていることありますが、問14と問15については、90%を超えており、意識の高さが伺えます。

○ 「意識（…思いますか）」を聴いている、問14と15に比べて、「行動（…できていると思いますか）」という、問16と17の結果には差があります。

○ 引き続き、意識の高さを行動に移してもらうために、地域との関わりや住民同士の交流が進んでいくような取り組みが必要になると考えられます。

問 18

(令和元年度)

「介護、子育て、障害、病気やひきこもりなどについて、相談したいことがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる環境等が整備されていると思いますか。」

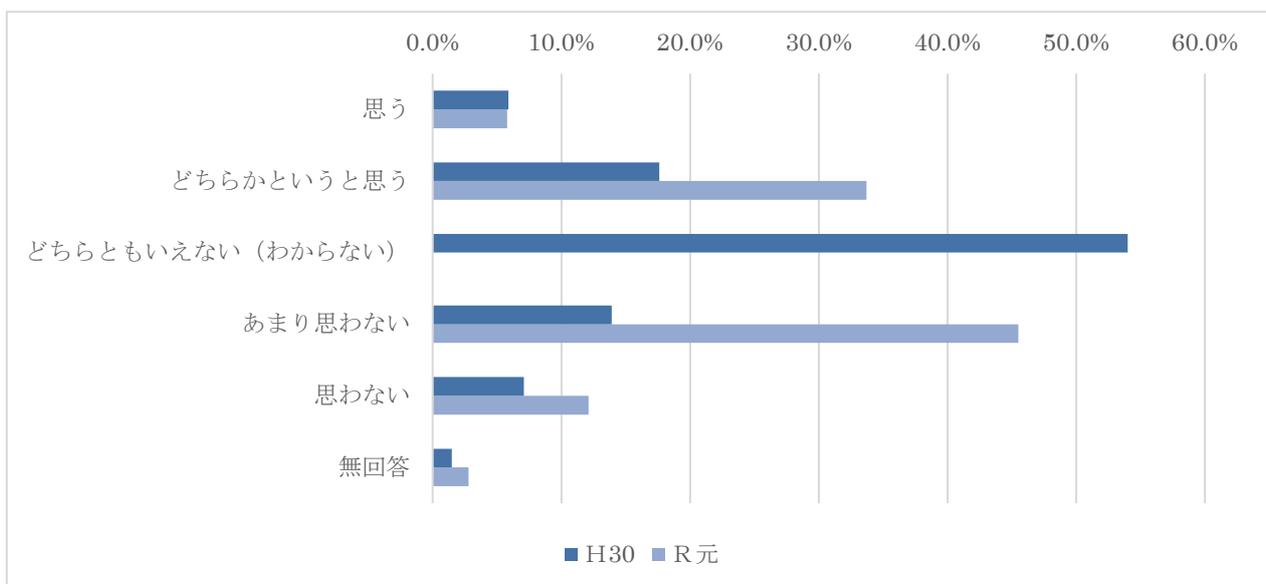
【1つ選択】

(平成 30 年度)

「困りごとがあったときに、相談できる場、支援を受けることができる体制等が市内で整備、構築されていると思いますか。」【1つ選択】

	平成 30 年度	令和元年度
思う	5.9%	5.8%
どちらかというと思う	17.6%	33.7%
どちらともいえない (わからない)	54.0%	—
あまり思わない	13.9%	45.5%
思わない	7.1%	12.1%
その他 (具体的に)	—	—
無回答	1.5%	2.8%

令和元年度は、設問に具体例を入れたこと、また、「どちらともいえない (わからない)」の選択肢をなくした結果、「思う」の割合はそのまま、「どちらかというと思う」が約 25%増えた一方で、「あまり思わない」が約 30%増えています。



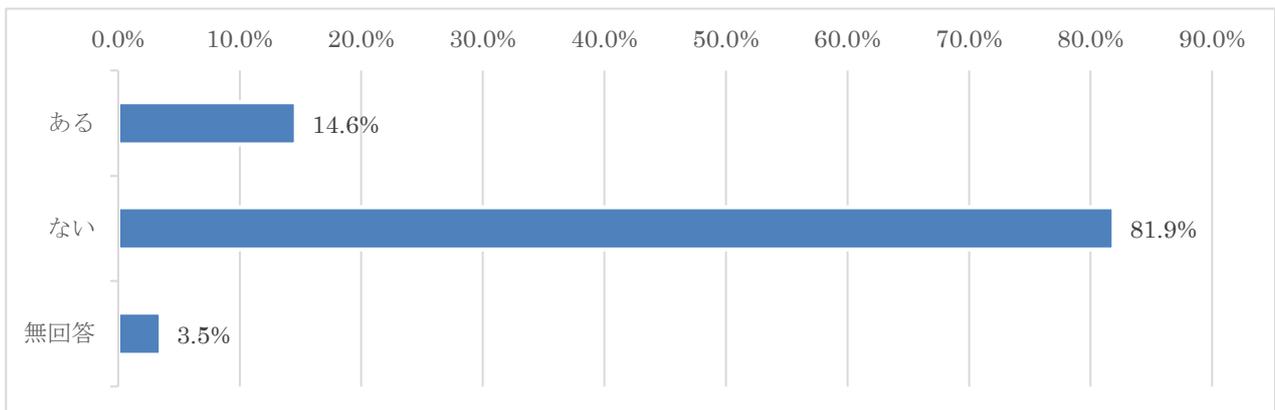
問 19

(令和元年度)

「前問に関連して、現在、相談をする、支援を受ける状況にありますか。」【1つ選択】

(※) 主な相談機関の例：地域包括支援センター、障害者相談支援事業所、子育て世代包括支援センターや生活困窮者自立支援相談窓口など

上記問 18 で、「あまり思わない」と「思わない」が合わせて 57.6%ですが、本設問では「ない」が 81.9%となっています。



問 19-1 【自由意見（抜粋・分類）】

「相談、支援の環境等について、ご意見等がありましたら、自由にお書きください。」

① 【全般】

<input type="radio"/>	窓口があっても、横のつながりがうまく機能していない。
<input type="radio"/>	色々な面で助けていただいています。
<input type="radio"/>	相談機関の活動内容、それらの住所もわからない。
<input type="radio"/>	休日は閉館日で相談しようにも行けない。どこにあるか分からない。
<input type="radio"/>	将来への不安。
<input type="radio"/>	どこへどのように何を相談したら良いのか判らない。
<input type="radio"/>	具体的な業務内容とどこにあるのかをもっとわかりやすく伝えてほしい。
<input type="radio"/>	佐倉市も 5080 問題対策を考えた方がよいと思います。
<input type="radio"/>	どんな環境が存在するのか知らない。いざ困った時、相談できるところを探そうと思えるかわからない、探し方もわからない、困ってない時は気にもしないだろうから困った時はまずはここ！という最初の窓口があるといい。あるのかもしれないけど知らない。
<input type="radio"/>	相談しても思ったような答えが得られなかった。

○	地区の中に相談員を作る必要がある。
○	仕事に行っている時間が長いので家に居る時間が少なく、まだ必要としていない。
○	昔みたいに向こう三軒両隣が仲良く対話ができるにしたい。
○	今現在は事業所に住んでいるので母・姉とは別の住まい。相談を聞いてほしいときに聞いてもらえるので便利だ。
○	十分な相談、支援を受けています。
○	家族の中には様々な世代が住んでいて、それらがからみあって困りごとが生じるのに、相談機関がそれぞれで縦割りである。
○	現状では支援をうけていない、実態を十分把握していない。
○	どのような相談窓口があるのかを知る機会が少ないかと思います。又、気楽に窓口へ行けるイメージはありません。
○	頑張らない人の方が支援してもらえるのかな。
○	相談窓口がよくわからない。
○	今のところ相談や支援をお願いすることはありませんが必要になったらお願いします。
○	相談できる場所があるのかもしれないが知らない。広報誌を出すなりして周知してほしい。周知しないなら税金の無駄なのでやめてほしい。

②【行政】

○	佐倉市の相談・支援環境について、具体的に何があるのか、積極的に示して欲しい。またその示し方をよく考えてほしい（ここに書いてあるでは弱い）。
○	センシティブな情報を扱うので、その方面の高度な教育を受けた市職員が直接行うべきではないでしょうか。

③【高齢者】

○	信頼しているケアマネージャーさんがとてもよくしてくれるので安心している。
○	高齢になるとバス停までも歩けなくなり、タクシーを使うようになるがタクシー割引など、タクシー券があると良いが・・・。
○	離れて住む親の介護支援等→具体的に対応してくれる。
○	相談ではないが、用事で地域包括支援センターに行ったが、受け付けの人の感じが良かった。ただ、入口がせまくゆったりできない。精神的につらい時等、居心地よくなさそうです。
○	私本人77現在要支援を受けておりどこへ出るのも足が悪く外へ出られなくリハビリセンターの様に迎えに来てくださる所でなければ外へ出られません。

④【障害】

- 40 才前後の人が障害になったとき、2-3 年は医療と介護両方利用し、社会復帰が出来るようにしたい。
- 孫が軽度の知的障害がある自閉症である。将来、自立のための事業所を充実して欲しい。
- 小学校特別学級に親身になって子供、親に相談に乗ってくれる先生がいると良いと思います。
- 足が不自由で早く手すりをつけたいのです。

⑤【民生委員】

- 幼児 2 人を共働きで育児している状況で 30 年度は自治部会長をやることになりました。市の支援を受けたい例であるのに、31 年度の民生委員選出等が大変でした。
- 民生委員はよくやっていると思う。
- 大変なお仕事と思いますが、民生委員さんに、支援の必要そうな家庭を（自分から支援を申し出られない家庭など）きめ細かく回って頂けると有難いです。

⑥【自治会】

- 地域の高齢化に伴ない自治会の活動も消極的になり、自治会が住民への通知（連絡）の一方向的な取継ぎになっている。市の自治会への指導、参加を希望する。

⑦【教育】

- 小中学生の不登校児童生徒に対する支援システムが不十分。
- 子どもの大学の授業料の支払いが大変なこと。

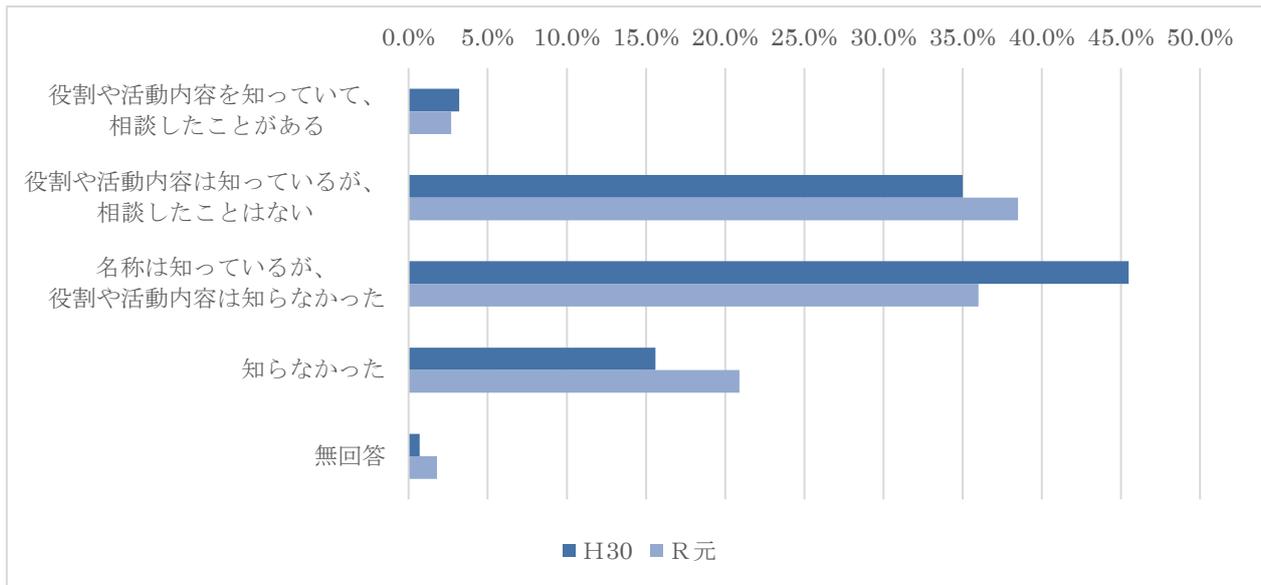
⑧【ひきこもり】

- 近隣にひきこもりの方がいます。色々な事件があるので心配。家族、小さい子供もいるので。

問 20

「民生委員・児童委員は民生委員法・児童福祉法に基づき、自らも地域住民の一員としてその地域に住み、主に高齢者、児童などの見守りや住民と行政とのつなぎ役を担っていますが、民生委員・児童委員の役割や活動内容を知っていますか。」【1つ選択】

「名称は知っているが、役割や活動内容は知らなかった」が減少する一方で、「役割や活動内容は知っているが、相談したことはない」と「知らなかった」が増加した。



問 21

「お住まいの地域を担当する民生委員の名前を知っていますか。」【1つ選択】

「担当がいることを知らなかったし、名前も知らなかった」が減少する一方で、「名前を知っている」と「担当がいることは知っているが、名前は知らなかった」が増加した。

